広報
向日市
No. 123　昭和50年5月
■ 発行　京都府向日市役所（向日市寺戸町中野20）
■ 編集　秘書課広報係
■ 電話　075（931）1111

おもな記事

○拍手の中、民秋市長初登庁＝人間優先のまちづくり・民秋市政スタート＝（一ページ）
○お元気で中山市長＝退任式のもよう＝（二ページ）
○光化学スモッグに注意しましょう（二ページ）

1 市制施行後、初の向日市長選挙で無投票当選を果した民秋市長、職員の拍手の中、初登庁

市長初登庁

人間優先のまちづくり

民秋市政スタート

市制施行後、初の向日市長選挙が四月十七日告示されましたが、無投票で民秋徳夫氏（前助役・五十五歳）が初当選されました。公害のない人間優先のまちづくりを積極的に進める民秋市政が、スタートしました。

民秋市政の第一歩を踏み出す新市長初登庁式が、五月二日市役所で行われました。

午前九時、市役所前に到着した民秋市長は、職員ら約三百五十人が庁舎前に整列し拍手連する中、女子職員からの花束の贈呈、つづいて市立第四保育所園児二名から色紙のレイをかけられ、勢ぞろいした職員の拍手にこたえながら、式に臨みました。

式は、辻山市公議長、末村府会議員、市会議員、職員ら約百三十人が列席し、民秋市長の初訓示で始まりました。

民秋市長は、「わたしはこの統一地方選挙の市長選で、無投票当選をしましたが、これもひとえに議会関係者や、政党の方々、市民各層のご支持によるものです。とりわけ、「住みよい向日市をつくる会」のご支援があったればこそと深く感謝しています。

わたしは、中山市政を受けつぎ、これをより一層発展させる決意で、市長の重責を負わしていただくことになりました。

わたしが、市政の基本としては、市民本位の自治の確立にあり、市政遂行の姿勢は、あくまで清潔で明朗な人間尊重を前提に進めていきたいと考えています。

今、地方自治にとって大切なことは、真の住民自治の確立を求めて、市民の暮らしを高め、教育、文化をはぐくみながら、市民とともに福祉の風土を養い、福祉の充実した環境に恵まれた都市の建設です。

（職員を前に初訓示する民秋市長）

そのため、太陽と緑とふるさとの美しい自然と文化遺産を守り、人間優先の風土を育て、豊かな生活環境の向上に努め、暮らしと文化と教育に重点をおいた公害のないまちづくりを進めていきます。

しかし、本市の財政状態は、総需要抑制策による不況とインフレにあい、財政危機の状態にあります。この現在の地方財政の問題点を打開していくため、市民や議会の協力を得、また革新市長会と行動をともにし国の制度的欠陥の克服、過負担解消の方向に全力をあげて取り組んでいきます。

また、内部的には、経済的な行政運営をはかるため「最少の経費で最大の効果をあげる」即ち、最少の負担で最大のサービスを住民に提供することに真剣に考え、無駄なく、経済的、効率的な行政の推進を、職員一丸となって進めます。

職員は、全体の奉仕者として、公正に処理し、どこまでも住民本位に行動し、任期の四年間、施策は完全消化を目標に、職員の方々のご協力とご努力を期待します。」と訓示しました。

つづいて辻山市公議長、末村府会議員のあいさつのあと、職員を代表して総務部長の歓迎のことばがあり式を終えました。

民秋市政が、中山市政のあとをついでスタートしました。

わたしたちの住むまちをより住みよいまちにするため、民秋市政は、いくつかの公約をあげました。

民秋市政は、この公約実現のために、市民本位の自治確立をもとめた、清潔で明朗な人間尊重を前提としたまちづくりを施策の中に取り入れ、全力をあげて取り組み、進めていきます。

民秋市政の公約は、つぎのとおりです。

太陽とみどりと「ふるさと向日市」の美しい自然と文化遺産を守り、人間優先の風土を育てるため、

・みどり豊かなまちづくりと憩いの場の設置
・市民本位の教育、文化、スポーツ施設の建設
・公共下水道の促進と水資源の確保、生活関連道路の整備
・市民の理解を深め乙訓二市一町の合併を十分ふる

わたしの公約

○母と子、老人、心身障害者を守る
・乳幼児対策、児童の教育等の施策充実
・妊産婦、母と子、老人、心身障害者等の幸せを守る福祉の強化

○中小企業者の振興と近郊農業の育成
・中小企業の経営助成と融資制度の拡充
・農業基盤の改良や特産物で近代農業の育成

○住民参加で住みよいまちづくり